

大型車整備市場の動向

新車販売の推移

新型コロナウイルスの影響が強く表れた2020年度は、普通貨物車の新車販売台数が対前年度比90.7%、小型貨物車が同90.8%、2021年度は普通貨物車が同90.3%、小型貨物車が同95.0%で、乗用車（2020年度対前年度比91.3%、2021年度同91.6%）と同程度の減少率で推移していた。

巣ごもり需要により一部宅配の利用者は増加したが、海外からの輸出入の停滞などにより運行回数が減少し、経営状況が悪化した運輸事業者も多く、全体としては貨物車の新車需要が低下したと考えられる。一方、コロナ禍によって観光業及びバス事業者が大きな打撃を受けたため、バスの新車販売台

数は2020年度で対前年度比59.6%、2021年度で同78.2%と大幅に落ち込んでいた。

また、部品供給問題などによる車両生産への影響及び納期遅延は、大型車においても発生している。今後、コロナ禍が収束し、新車需要が本格的に回復した場合、車両供給不足の深刻化が懸念される。

保有台数の推移

保有台数（表1）を見ると、2021年は貨物車が前年から0.2%増と微増した一方、乗合車は3.8%減少しており、コロナ禍を受けたバス事業者の経営悪化による影響が現れたと推察される。

貨物車の保有台数を10年前（2011

年3月末時点）と比較すると、全体が4.9%減、小型（三・四輪合計）が7.8%減、軽（三・四輪合計）が7.2%減だった一方、普通が7.1%増、被けん引車が21.3%増となり、積載量の大きい大型車の需要が高まっていることが読み取れる。

カーボンニュートラルへ向けて、関心が高まる電動車の保有台数に関しては、2021年3月末時点で貨物車がHV45,103台（保有台数全体に占める割合0.3%）、EV1,688台（同0.01%）、乗合車がHV1,404台（同0.6%）、EV125台（同0.06%）で、乗用車（HV：同16.2%、EV：同0.2%）と比べても低い水準にとどまっている。

特に大型トラックにおいては航続距離や積載量などの点でEV化への課題

表1 保有台数の推移

（単位：台）

		2011年3月末時点	2017年3月末時点	2018年3月末時点	2019年3月末時点	2020年3月末時点	2021年3月末時点
貨物車	普通	2,271,951	2,339,825	2,358,011	2,386,166	2,412,396	2,433,359
	小型四輪	3,788,837	3,523,142	3,507,600	3,500,369	3,493,051	3,491,798
	小型三輪	1,049	1,015	1,012	1,013	1,010	1,005
	被けん引車	153,010	166,554	170,909	175,792	181,759	185,669
	軽四輪	8,921,550	8,419,639	8,344,104	8,320,375	8,277,706	8,282,803
	軽三輪	1,244	1,219	1,210	1,215	1,212	1,209
	合計	15,137,641	14,451,394	14,382,846	14,384,930	14,367,134	14,395,843
乗合車	普通	107,850	112,276	112,796	112,501	111,651	107,848
	小型	118,989	120,517	120,746	120,491	119,400	114,478
	合計	226,839	232,793	233,542	232,992	231,051	222,326
乗用車	普通	16,838,550	18,445,471	18,887,429	19,268,854	19,614,910	19,975,314
	小型	23,296,582	21,046,494	20,646,353	20,176,826	19,665,498	19,206,187
	軽	18,004,339	21,761,335	22,051,124	22,324,893	22,528,178	22,735,611
	合計	58,139,471	61,253,300	61,584,906	61,770,573	61,808,586	61,917,112
特種（殊）用途車	普通	1,024,990	1,068,792	1,081,623	1,091,786	1,101,116	1,111,663
	小型	150,686	148,631	149,347	150,190	152,689	154,697
	軽四輪	147,690	160,011	160,398	160,724	160,363	159,701
	大型特殊	322,652	342,596	345,853	348,802	351,934	354,133
	合計	1,646,018	1,720,030	1,737,221	1,751,502	1,766,102	1,780,194

出典：自動車検査登録情報協会Webサイト

ジャパントラックショー 2022、

カーメーカー等

いすゞ自動車



2022年度中の商用EV量産化に向けた実証実験に使用しているモニター車・エルフEVを展示。2019年から開始した実証実験では、2022年4月までにモニター車13台合計で走行距離35万kmを超えるデータを収集した



カーボンニュートラル社会への移行期における大型車のCO₂排出量削減策として、CO₂排出量が少ない天然ガスを利用するLNG車の活用を提案。さらに、大型トラック・ギガをベース車両としたFCVによる実証実験を2022年度中に開始する方針を示すなど、FCVの開発状況をパネル展示で報告した



大型トラック・ギガ、中型・フォワード、小型・エルフの全シリーズに搭載されているコネクティッド技術・プレイズムをパネル展示で紹介。遠隔から車両状態をモニタリングし、故障の予兆を検知した段階で予防整備をすることで故障を未然に防ぎ、整備・休車時間の短縮に貢献する

三菱ふそうトラック・バス



最高水準の安全機能を備え、小型物流のパートナーとして信頼されるFUSOの伝統的な小型トラック「eキャンター」。試乗（着席）体験も実施



より環境にやさしい小型電気トラック「eキャンター」。騒音が少なく、CO₂を含む排出ガスを出さない、未来のモビリティに最適なクリーン車両

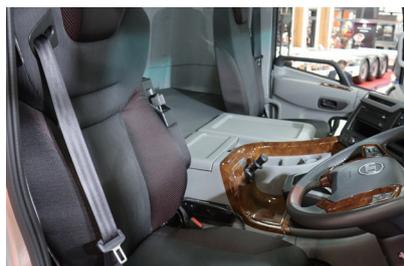


ACTIVE DRIVE ASSIST（高度運転支援機能）レベル2を搭載し、安全性、経済性、コネクティビティ機能も備えた「スーパーグレート」

UDトラックス



2021年7月からオプション設定された「UDアクティブステアリング」と「ベルトインシート」を搭載したクオンを展示。UDアクティブステアリングは、従来の油圧式ステアリングギア上部に新たに搭載した電気モーターによる支援機能



シートベルトをシート本体に組み込み、シートサスペンションの動きに追従することで、走行中の圧迫感を軽減するベルトインシート。体格や好みにきめ細かく対応する多彩な調整機構も搭載



12段電子制御式オートマチックトランスミッション「ESCOT-VI」、ダウンサイジングによる軽量・コンパクト化で積載量拡大に貢献する8ℓエンジン「GH8」を展示